

# 平成 29 年度第 2 回 川崎市多摩川プラン推進会議

## 議事録

■開催日時：2018 年（平成 30 年）3 月 19 日（月）14：00～

■開催場所：川崎市役所第 4 庁舎 4 階 第 2 会議室

■出席者（敬称略）

会長	鈴木 誠	東京農業大学 教授
副会長	吉富 友恭	東京学芸大学准教授
委員	齋藤 光正	NPO 法人多摩川エコミュージアム理事
委員	寺尾 祐一	NPO 法人多摩川干潟ネットワーク副代表
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	加藤 純一	市民公募
委員	梅原 七重	市民公募
委員	羽澤 敏行	国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所副所長

■議事録

### 1. 開会

### 2. 緑政部長あいさつ

### 3. 会長あいさつ

### 4. 議事

- (1) 平成 29 年度実施事業報告
- (2) 意見交換
- (3) その他

### 5. 閉会

#### 事務局より平成 29 年度の取組を説明

【鈴木会長】 意見交換に移りますが、皆さんにいろいろな意見を出していただかないと早く終わってしまいますのでぜひご意見をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、ぜひお願いします。

【吉富副会長】 7 ページのところに⑧再整備の地図がありますが、それ以降の⑨、⑩、⑪、⑫、⑬は⑧の詳細を示しているのでしょうか。⑧が大きな項目で⑨、⑩、⑪、⑫、⑬はその細かい説明のように見えますが、これはまた別ですか。

【事務局】 別になります。

【吉富副会長】 ⑧は全体の整備ですか。

【事務局】 重点的に行うエリアとしてこの上平間・古市場地区を再整備するというものです。

【吉富副会長】 その再整備の中には例えば。

【事務局】 8 ページにあります⑨の駐車場の拡充は一環です。あと、9 ページの下、古市場サッカー場の補修工事も上平間・古市場の再整備の一環です。ちょっとこれは並びがあれですね。

【吉富副会長】 全体の説明があって、それぞれについて細かく説明しているのであれば⑧の中に A、B、C でやるとか何か変えるほうが……。

【事務局】 そうですね。

【吉富副会長】 初めて読む人は捉えにくいと思います。

【事務局】 はい。

【加藤委員】 1 ページ目に「多摩川美化活動の推進」と、とてもいい感じで書いてあるところに意見です。この活動をしてきまして、例えばバーベキューとか何かのスポーツイベントが終わった後にゴミを独自に回収してお願いしたりとか、今までも多摩川推進プランの会議でも丸子橋の下でバーベキューをするとゴミが出るのでイレギュラーで回収するという話があるじゃないですか。皆さんもご存じだと思いますが、あれは別の予算が掛かっているわけです。そうですね？ 予算は別ですね。

【事務局】 そうですね。

【加藤委員】 これはかなり掛かっていると思うのです。ここにゴミが多くなったり減ったりする、とかはこれは年度でしようがないと思うんですけど、お金の換算すると結構。みんなが捨てて行くからこういうことが起こっているのだと思います。美化していること

はいいことだと思いますけど、逆説的に「ゴミを捨てないようにしよう」というキャンペーンを川崎市でやっています、みたいなことを一言を書くとか。あるいはホームページにそういうスローガンのもとでゴミの削減について取り組んでいます、みたいなことを書いたほうが予算的な、少しいやらしい目で見ると、それだけイレギュラーでお金を使っているのか、私なんかはちょっといやらしく見てしまいます。だから一見いいように見えることもそういう嫌な人がいたときに、実はこういう捨てないような運動もしているんですよ、みたいなことを一言書いたり、ホームページに載せたりとか、あと、川崎市の広報で紙を配ったりされていると思うので、そういうときに常に多摩川を美化するためにゴミは持ち帰りましょう、みたいなことをこども書いたりとかすればいいじゃないのかなど。裏を返せば、「金掛かってんじゃん、これ、いっぱい」というふうにいやらしく見てしまう人がいるのではないかと思いますので、ご検討いただけたらと思います。

**【鈴木会長】**　　そういうことで有効に皆さんが啓発されて、ゴミをちゃんと汚さないということは大事だと思います。先ほどマラソン大会の話がされたでしょ。昨日やりましたね。荒川でも始めた頃に皆さんと議論になったことは、マラソン大会はいいことだけど、ゴミをみんなが置いて行ってしまう。まさしく。それをキャンペーンじゃないけど、やりましたですよ。マラソン大会の後の写真を見ると、それで「こんなに汚れていいのですか？」と。それでだんだん改善されるようになった。自分たちが楽しんだ後の結果がどうなったか。それを始末する人がいて、それにも金が掛かって労力が掛かっているから、それは一人一人がみんな持って帰れば全然何でもない。もとのとおりに気持ちよく。それを啓発すれば日本の方はみんなそれをやれます。「日本の方」というのもおかしいですが、そうなんですよ。日本ではそういう習慣があったのだから、もともと。ぜひ、そういうものをちりばめていただけたらと思います。

**【事務局】**　　環境局と協調しながらそのへんを含めて、スローガンも含めて。一般的にはゴミを捨てる話ではなくて、3R（スリーアール）といって、Reduce、Reuse、Recycle という取り組みをやっています。こういうきちんとしたものがあるので、そういうものも含めてこのへんに書いていくように今後調整していきたいと思います。

**【寺尾委員】**　　加藤さんがおっしゃったことは素晴らしいことだなと思っております。つまらないことをいくつか指摘させていただきます。表紙に2017年度と書いてありますが、西暦と和暦をどちらかに統一していただければと思います。括弧書きでも構いません。本当につまらないことなんですけど、よろしくお願ひしたいと思います。

これは多摩川プランに実際に関係があるかどうかは分からないんですけども、私は今殿町2丁目に住んでいます。羽田へ架かる道路の1キロぐらい手前なのかな。先日行ったときに工事の事務所に中に、その環境にいるようなカニや魚があるというのを聞いてるんですけども。土手からは入りにくいというか、入れないようになっていて。あれだと工事事務所のほうへいちいち回って入る方はいらっしゃらないんじゃないかなという状況です。もし、可能であるならば、土手のほうから入れるような手だてを取っていただければということが1つ最近多摩川を歩いて感じるところです。

もう1つなんですけど、先日の会議のときにお話したのですが、「二ヶ領せせらぎ館」と「大師河原水防センター」のAEDの設置の件については何か進捗状況が分かりましたらお願いしたいと思います。

【事務局】 AEDは4月設置に向けて今準備中ですので、詳細についてはもうしばらくお待ちいただければと思います。順次設置する予定です。

【寺尾委員】 設置されるようになりましたら、先ほどのような路面標示みたいな形でしていただけるのですか。

【事務局】 後になってしまいますが、それは考えています。

【寺尾委員】 分かりました。よろしくお願いします。

【鈴木会長】 他にいかがですか。感想でも。

【目黒委員】 お願いと言いますか、1ページのところですが、これは川崎市主導の清掃だと思うんですけど、結構民間とか鉄道関係はいろいろな取り組みをされていると思うんですよ。そういうところも何か少し載せていただいたほうが、やはりいろいろな人たちが関わっていることを載せることによって、いろいろ子ども会も含めて活動されているので、それをやることは難しいかもしれないですけど、そういう民間でもやられているところもあることをぜひとも入れていただくと。やはりいろんな活動をされているというふうに、多摩川という見方ができると思ったりもしますので、そういう点をお願いしたいと思っています。

あとはいろいろなところで取り組みをされているので、私もゆっくり見ないと何とも言えないのですが、昔から比べて多摩川の整備がだいぶ進んでいることとサイクリング道路も国交省さんの工事で高潮堤防とか広めになったりとかで使いやすくなっていると見えています。そういうところも入れたらどうかと。これを見る人は字を見るか絵を見るかと思うんですけど、やっぱり目で見ると見やすいと思いますので、なるべく字は少なくし

ていただいて見やすくしていただければと思います。

【鈴木会長】 その他、どうでしょうか。

【小野会長】 この報告書を修正してくださいというお話ではなくて、今後参考にしていただければというつもりでの意見です。私はいろいろ環境補修みたいなものに携わっているのですが、構成は最初にメッセージが入って、トピックスが入って実績があります。だいたいそういう構成のものが多いです。この新多摩川プランでどうしたいのかというメッセージみたいなものが簡単に最初に入っていると位置付けがよく理解できると思います。トピックスはどの事業を取り上げるかは難しい面はあるかもしれませんが、そういった目玉みたいなものが最初にあると入っていきやすいことがあると感じました。

【鈴木会長】 ありがとうございます。今おっしゃったことは大事で、さっき加藤さんが発言された内容とも通じますよね。これは事業報告書なのですが、皆さんがやったことを報告として絵柄を変えてやっているというだけで、メッセージが伝わらないよね。本当に。だから、これを見た方が次に「私も今度参加しよう」「これだけやってる」という伝わるものがあつたほうが、あれやりました、これをやりました、ということ写真で証拠立てただけじゃなくて、これを使って次に結びつけるようなものに編集したらいいと。今回はぎりぎり無理かもしれないけど、徐々によくしていきましょうよ、そういう形だね。

【加藤委員】 会長と副会長に顔を出してもらって評価みたいな、一言。素晴らしかったとか評価に値するみたいなものを例えば会長と副会長の学術的な立場から。長く書く必要はないと思います。あと、企業とおっしゃるならば、パパッと企業の皆さま方もこういうところが素晴らしかったみたいなことを織り交ぜるとかいうものも、すぐやれというのではなくて、そういうふうに会長が言うのであれば「会長出てください」みたいな。ちょっと思いました。顔が見えるということはとてもいいことなので。ただ、これは私ずっといて、1つだけ言わせていただくと、ビジュアル的にも図とかグラフとか、最初はほんとあんまりなくて、すごく偉そうに僕は言ってたんですよ。本当に偉そうに。ものすごくよくできていて、今日感動しているのです。なので、あと、顔が見えたらいいと今思ったので、やっぱり会長とか副会長に出てもらったらおもしろいかなという意見です。

【事務局】 来年から「多摩川プランとは」とか、まず、そういうはしりから。やっぱり事業報告だけじゃなくて、それに対してどういう目標かということをもう少し何枚か多めに作らないと。まさにおっしゃるとおりだと思いますので、それは検討していきます。

【鈴木会長】 今加藤さんがおっしゃっていたことは関東地整の事業報告評価というも

のがあるんだけど、そこでも冊子を作って順番に評価委員が総括的に学んだことを書くようにしました。要するにいろいろな事業をやっているけれども、そこから将来に向けて改善すべきとかどうだとか、やったことに対して総括的に委員としての感想みたいなもの。中身がたくさんあるので、それを読み込んで、要するにいいところ取りをすると、課題として残っているのはどうなってしまうという総括的なことをボンと入れて。それはかなり有効でした。書くほうは大変ですけど。

【事務局】 市民の参加者の方のアンケートじゃないですけど、ここがよかったとか、ここが課題だというものをもしできたら事業の中に取り、次の改善に入れたらと思います。

【吉富副会長】 今おっしゃったことで僕が感じていることは、例えば6ページでしたら、シンポジウムを開催して、そのシンポジウムの成果が何だったのかとか、参加者の感想みたいなものが具体的な言葉として出てくると、もう少し報告としても伝わりやすいものになるじゃないかと思います。

最初の話で何のメッセージかというところで、やっぱり最後でもいいですけど、「多摩川プランとは」という説明が全くないので、どこかには入れておく必要があると思います。最後でも構いませんし。最初は少し詰められていますので、何か目的とか簡単なことは触れておく必要があると思いました。

【鈴木会長】 このメモのページというものは。

【事務局】 ページが余ったので。

【鈴木会長】 それとあと4ページ。だいたい説明と写真が対応してるのに、4ページの「子どもの生きる力を育む場の創造」で「渡しの復活」事業の推進でしょ？ 下のほうには「丸子の渡しの祭りは台風の影響で中止になりました」と書いてありますけど、これは「子どもの生きる力」、あるいは「渡しの復活」と、ここの写真のドジョウ汁みたいなものは何があるのかと思うのですが。ここの意味が分からないんだけど。これはドジョウ汁じゃないの？

【事務局】 アユが入っています。

【鈴木会長】 アユか。

【事務局】 これが多摩川鍋。

【羽澤委員】 全体的に写真の説明がないよね。下に一言だけ入れると、これが何か分かりますけど。

【梅原委員】 ドジョウにしか見えない。

【鈴木会長】 参加した人は分かるけど、どう見てもこれはドジョウなんじゃない？ アユの塩焼きも書いてないし。

【加藤委員】 写真には必ずキャプションを入れると決めたほうがいいだろうと思う。写真には必ず下にゴシックで撮影日とかも入れて、必ずルールは決めちゃったほうがいいと思います。それでいいと思います。

【梅原委員】 多摩川鍋だったのか。何の汁だろう、みたいな。何が入ってんだろう、これ。エビかな？ 何かな？ みたいな。写真の説明がないと何のためにこれがあるのか分からない。

あと、関係がないかもしれないですけど、事業報告書だからこの美しい「多摩川は今」という創作自体は素晴らしいと思うんですよ。見やすくできてるし、いろんなイラストなんかも入っていてとても分かりやすいですけど、これは事業報告書だからこれでいいと思うんですね。私はこんな美しい多摩川も必要ですけど、今心配なのは災害と多摩川なんです。地震の問題がすごく注目されていますよね。地震があると津波で多摩川は増水するかもしれないじゃないですか。川が逆流して。そうしたときの対策みたいなもの。平和な多摩川もいいですけど、もう少し市民が多摩川と共存するための知識がほしいな、みたいな。全然関係ないかもしれないですけど、でも、川とは関係あるんですよ。

【鈴木会長】 今の梅原さんのご発言のところですが、これだけでは伝えきれない部分があると思うのです。6ページでは「とどろきの水辺の楽校」を「検索」してくださいと書いてあるじゃない。さらに最後には問い合わせ先とかね。もし、この事業に関係してこれの報告がどこかにあるのだったら、あるいは今みたいな地震と川との関係についてどこかで紹介すると、国交省の保全事務所のほうでやっているとか、そういうところのリンク先というのかしら。

【羽澤委員】 URLを入れるとか。

【鈴木会長】 入れておけば、これで今みたいな心配事、そこをもう一回見ようとか。興味があったところはマラソンのところだと、マラソンの結果はどうだったかとか、そこに今度行けるように。全部やる必要はないけれど、主要な今みたいなところはやはり。この水辺の楽校だけ検索で出せるなら同じようなことをやったらどうですかね。だんだんよくなっていきますよね、やっぱり。ご意見いただくとね。

【事務局】 そうですね、京浜河川さんのほうで洪水の判断のハザードをいただい

ますよね。

【梅原委員】　　そういうマップみたいなものを参考にあると、多摩川と関連づけられていいな。

【齊藤委員】　　幸区。川崎区はもうハザードマップができたんですよ。だから幸区以降こっちは来年の3月までの間に完成すると。ハザードマップは結構参考になりますから。見てください。

【梅原委員】　　はい。そうですね。

【齊藤委員】　　僕らも子どもたちが来たときに、学校から1,000人ぐらい来ますから、「おたくの学校はここだよ」とハザードマップで説明するんですよ。そうすると、日吉小学校なんかは「うちが一番高いんだね」とか言って。動物園があるとかね。あそこなんかは喜んでますけどね。他はみんなもぐっちゃうんですよ。体育館ももぐっちゃうからね。どうやって避難するかということを引きちと子どもたちに説明する必要がありますよね。だからそのへんの対応は「せせらぎ館」の場合はそのつど行ってますけども、全市民に対象にというのはやってないですから。でも、その必要はあります。

【梅原委員】　　ちょっと雨が降ったりすると、そこら辺水が流れるようなところがあるんですね、いっぱいになってて。

【齊藤委員】　　どこが低いか、どこが高いか。どこに逃げたらいいとかね、そういうのは事前に勉強をしておく必要はありますよね。

【梅原委員】　　そういうところも参考にできる資料があるといいなと思います。

【寺尾委員】　　8ページに古市場の駐車場の整備ということで載ってるんですけど、私気が付かないのかもしれませんが、多摩沿線道路をずっと走っていて、私は分かっているんですけど、駐車場という表示がたぶん一カ所もないような気がするんですけども。それを作る必要というのはあるのでしょうか。逆に私はなくてもいいのかなと思いますけど。そのへんというのは何かお考えになっているのかなと思っています。

【事務局】　　今のところ基本的に多摩沿線から入る駐車場というものは付ける予定にはないですね。

【寺尾委員】　　そうですか。

【事務局】　　やっぱり基本的に国のほうもあまり河川敷の駐車場に入れたがらない部分があって、基本は市街地の駐車場にとめていただきたいんですけど。市としてはいろいろな施設があるので、その施設の利用者のために駐車場がないといけないという形で最低限



作ってるというようなイメージです。なので、あまり遠くから誘引するような形にはしたくない。分かっている人には駐車場を、入るときに「これこれ、こう」という看板とかはやっていきたいんですけど、あまり外から目立たないようなイメージで考えています。

【寺尾委員】　　きっとそういうことだろうなあ、と思いながらあの道を走っているんですけども。分かりました。ありがとうございます。

【鈴木会長】　　基本的な話で、この冊子自体はどこで配布というか。

【事務局】　　区役所ですとか。

【鈴木会長】　　ロビーとかで。

【事務局】　　あと、図書館とかいったところに配布して、ご自由にお持ちくださいと置いておく。

【鈴木会長】　　PDF か何かにして。

【事務局】　　ネットにも、はい。

【鈴木会長】　　いかがでしょうか。何か。

【吉富副会長】　　1 つ、目次のところでよろしいですか。これ、大きくⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとありますけれども、小さい数字が①、②、③、④というふうに、例えばⅡは②から始まって、Ⅲは⑤から始まって、となってますけれども。何かそれぞれの大きい項目ごとに①から始めたほうが一般的かなと思うんですが。これは何か通し番号を付ける理由はあるのですか。プロジェクトの数ですとか。

【事務局】　　ただの通し番号です。

【吉富副会長】　　例えば 2 ページを見ると、②から始まっているので、何か違和感がありませんかね。4 ページは⑤から始まる。

【事務局】　　言われてみれば。

【吉富副会長】　　内部で何かそういう必要があればあれですけど。

【目黒委員】　　これで見ると、イベントごとのところにどこの地区でやったという番号みたいなんですけど。

【鈴木会長】　　こっちと対応している。

【目黒委員】　　どこが、これはどこの地区だよ、というのかなと思うんですけど。

【事務局】　　一応色でも分けてありますので。

【吉富副会長】　　その対応関係に気づくかどうかです。

【事務局】　　今じっくり見ているから分かりますけど。

【鈴木会長】 1から9までの数字がつぶれてしまって。活字が違うね、⑩、⑪と。

【事務局】 すみません、印刷するときの関係で。最終的にはきれいな形でやるはずですので。

【鈴木会長】 そうか、これは目次とマップが対応している。

【加藤委員】 会長、昔会議で沿ってなかったので、確かこれを対応させてたほうがいいよ、という審議委員からの意見があつてさしてもらった、その成果だったと思うんですね。ちょっと今それが白抜き文字になっているので、私も確かにこれを見ても見えないんですけど。色のところは白抜きじゃなくて黒のほうがもしかしたら見やすくする。そういう経緯が確かマップに対応させているというのが確かあったと。そうでしたよね？

【事務局】 そうですね。

【加藤委員】 はい。何かちょっと、もしかしたら私が意見を言ったのかもしれないですけど。

【吉富副会長】 もし小さい丸のほうを優先させるのであれば、大きい項目に数字を付けないという手もありますけどね。「自然と調和した美しい多摩川へ」と緑の大きい文字だけにして。色分けをせっかくしてあるので、そのグループは分かりますから、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴというものは数字を外すというのは。

【鈴木会長】 イベントマップを右側に持ってきたらどうだろう。目次が最初にあるから目次を見てしまうけど、マップが最初にあると「何だろう」と思うので、逆に対応関係が分かるんじゃないかな。

【事務局】 そうですね。

【鈴木会長】 これだけ見ると最初に目次を見てしまって、次からは報告内容みたいに見えてしまうから、逆転させてしまったほうがむしろ良い気がするんだけど、どうなの。

【事務局】 試してみます。

【鈴木会長】 試してみて。第三者評価を得て。

【吉富副会長】 これを仕事としてずっとやっていると分からなくなりますけど、例えば家族とか友達とか、そういう人に見てもらって意見を聞くと、だいぶいろいろ。ここがちよっと初めて見る人には分からないんだなとかが確認できますので、ぜひ身近な人に見てもらってください。

【鈴木会長】 左右に出ているのは、例えば2ページ、3ページだと黄色の目次の基調なので、これを濃く出てる？

【事務局】　　そうです。

【鈴木会長】　　あと薄くなってる？

【事務局】　　はい、そういう形になります。

【梅原委員】　　役所の方は皆さん眼鏡を掛けている方はいないんですね。遠視でこう、見えないとかっていうのはないですか。私なんか、もうちょっと字が大きいほうが見えやすいなど。眼鏡を掛けなくても見えるんですけどね。たぶん、目の悪い人は結構見にくいかなと。字が小さくて。もうちょっと写真をコンパクトにして字を大きくしてもらえると見やすいかな。

【事務局】　　印刷で字が薄く出てしまっているものがある。きれいに製本したときはもう少し見やすいんじゃないかと。

【梅原委員】　　絵がたくさんあって見やすいんですけどね、字が見にくいなど。でも、はっと見たら、皆さんは眼鏡を掛けていないんだろうなと思って。目をこらせば分かる。こういうのはなんとなくね……いや、見えますよ、こういうふうにやれば。近づければ。

【事務局】　　目次はね。なるべく目立って大きくなるような形で、太さも含めて。

【梅原委員】　　大きいとパッと目に付くんですけど、こういうよく読まないと分からないところは見にくいな。インパクトがちょっと。「あ、これ何？」みたいな。これもさっきお鍋だと分からなかった。お鍋の形にしていれば分かるんだけど。何だろう、これ、と。お汁なのかとよく読まないと分からない。全体的には美しいですよ。カラフルだし。

【鈴木会長】　　質問なんですけど、14ページの「拠点施設を」に来場者数とあるでしょ？これは平成29年12月末と両方入っているんだけど、いつからの話なんだろう。3月から12月？　いや、4月からの年度でやっているのかしら。

【事務局】　　年度ですね。

【鈴木会長】　　年度の。

【事務局】　　4月1日からの年度です。

【鈴木会長】　　1年間じゃないんだ。これが発行されるまでには間に合わないから。

【事務局】　　そうですね、3月末の数を出せばいいですけどね。

【鈴木会長】　　12月末だってもう平成29年、1年間。

【加藤委員】　　でも、グラフとの整合性はあったほうが良いと思うので、市民が見て、どちらを、というふうに普通に思うと思うので。

【鈴木会長】　　それで、このグラフのほうは4月から年度でちゃんとなっているわけ。

【齊藤委員】 年度ですね。29年度はまだ12月までなので2万人。例えば「せせらぎ館」で。それは3月末ではまた変更するという形。

【加藤委員】 単純に私なんかは「減ってんのか」と思っちゃいますよね。

【齊藤委員】 よろしいですか、一言。今質問があったように、人数の件ですけどね。こういう数字を出していただいたのはすごくありがたいですけども、今これは大師のほうの人たちと相談しなくちゃいけないんですけど。例えば今のうちの場合、「せせらぎ館」の場合は来館者にどういう人が入ってくるのかということをつかんでいるのですよ。特に今は幼稚園がものすごく多くなってきてね。この「せせらぎ館」の周りの6つか7つの指定保育園、幼稚園があるんですけど、それがみんな連れて来て、河原で遊ばせるんですよ。で、帰りにちょっと「あ、お魚さんがいる」とか「カメさんがいる」とか言って楽しんで帰って来るんですが。どういう人たちが「せせらぎ館」を利用しているのかということをつかもうとしています。だから、もし、来年度でもいいですから、そのへんまで具体的に出すようでしたら、前もって連絡をください。どういう幼児なのか、小中学生なのか、一般団体なのか。あるいはイベントなのか。そういうような形で分けられると思うのです。その人数の割合も出そうと思えば出せますので、事前にこういうデータがほしいと言ってくれば、うちのほうで調べておきますので、それだけの対応はできると思いますので、よろしくをお願いします。

それから、もう1つは川崎の人は意外と少ないですよ。みんな地方と言ってはおかしい、「せせらぎ館」は小田急線でしょ？ 厚木のほうとか、こちらは世田谷のほうとか、そういう人たちが電車に乗って結構来るのです。要するに多摩川という点で来るのです。あるいは二ヶ領用水というので来るんですね。だから、そういう点では中央の人たちとか川崎市以外の方がどのくらい来ているかというのもつかもうと思えばつかんでいます。それも参考にさせていただきたいと思います。

それから来館者数というと、自転車がものすごく多いのですが、あの人たちの自転車は何十万もする自転車ですから、ちょっと置いておけないですよ。持っていかれては困るから。だから、置く場所を置いてあるのですが、もう本当に大事にしています。お便所に行くまでも持っていくからね。だから、自転車を置いて館に入ってくることは本当に1割もないかもしれませんね。だから、自転車の利用者数というのもつかもうとしています。つかめません、正直に言って。朝早い人は例えば羽村の堰ぐらいまで行くと、往復100キロあるんですよ。そういう人たちはもう6時頃来ますからね。帰りに「せせ

らぎ館」に立ち寄って「じゃあ、またね」と言って別れていくのです。集合場所が「せせらぎ館」なのです。そういうことで利用者の把握をしたいんですけど、なかなか難しいです。できる範囲以内でやっています。だからそのへん、もし情報提供を前もってしていたらそれなりの準備をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

ついでに申し上げるのですが、10 ページのサイクリングコースで延伸整備、拡幅整備と書いてあるのですが、これを地区の人がどの程度の皆さんが知っているかなのです。例えば京王線はどの辺を走っているんだっけ、京王線の稲城市に接続してどの辺を言っているのかというのがパッと頭の中に入ってくるような対応の人は川崎市にいないですよ。高津、宮前、こっちのほうにしかいない。本当に多摩区の人たちしか分からない。だからそれはそれでいいですけども、自転車に乗って来る人が「今、こういうところを工事してますよ」という略図みたいなものがあれば、うちのほうでコピーして渡したいと思っているので、できればそういうものを1枚でも2枚でもいただければお渡しができるタイミングはあると思うんですが、よろしくお願いします。すみません、以上です。

**【鈴木会長】** さっきの話に戻るけど、目次のところでサイクリングコースの整備が⑩だから……⑩はどこかに入っているのかしら。入っていないでしょ？

**【事務局】** イベントだけを載せています。

**【鈴木会長】** これはイベントだけか。

**【事務局】** イベントマップです。

**【鈴木会長】** そうか。今のサイクリングコースの整備も含めて他のものもイベントだけではなくて全部を入れるということはできるのですか。ごちゃごちゃになって分かりにくかったらやめていいです。今みたいに、ここがどこか分からないという話は全体的な話ですから。そのために目次とせつかく地図を作ったので、と思ったのですが、よりこんがらがって見にくくなっても困るので。

**【事務局】** 参考にしてやってみます。

**【鈴木会長】** はい。とは言っても、あと1週間か10日しかないのに。頑張ってください。よろしくお願いします。頼りになる担当職員ですから、大丈夫でしょう、きっと。その他にいかがですか。羽澤さん、何か気が付いたことありますか。

今回ご意見を輩出していただくと来年度に向けての前向きなご意見も出ているので、会長、副会長ですぐに全部のコメントを書けと言われても今は無理ですから、来年度に向けて、ということで、いくつかよりよくしていくことを確認させていただければと思っています。

よろしいですか。だいたいご意見をいただいたということで、なければ担当の仕事をする時間を残しておかないといけませんので、早めに帰って仕事をしてもらってください、ということにしたいと思います。

先ほど出てきた微修正の部分はやっていただいたり、冊子のキャプションなんかは入ったり入ってなかったりしますので、そういうことはやっていただくということで。最新の完成版は少し見やすくなったかどうかを確認していただくことも大事かと思しますので、よろしく願いいたします。

あと、いくつかの点は来年度の事業報告の課題として1年かけて……10カ月ぐらいかけて検討していくということでいかがでしょうか、というぐらいのまとめでよろしいですか。あと事務局で受けていただいて作業、時間が少ないので大変かもしれませんが、無理をしないように。あまり残業して体を壊してまでやってほしいと誰も思っていないので。大事なことは事業を実施していたことであって、それを市民の皆さんたちが理解の仕方、やっぱり次に向けてより良くしていこうという気持ちがこの事業効果が芽生えることが大事だと思います。ですから、そこだけを気にしていただければと思います。

ということで、よろしく願いいたします。これで今日の次第の「意見交換」は終わったので、「その他」ということですが、何かありますか。

**【吉富副会長】** 今学芸大のほうで水辺をフィールドに学生がいろんなツアーをして教材を作るプロジェクトをアメリカのコカ・コーラ財団から支援を受けて進めているものがありまして、その写真展を開催しますので、そのチラシです。よかったらお越しいただければと思います。よろしく願いいたします。

**【鈴木会長】** そうしますと、事務局のほうで。進行を終わります。

**【事務局】** ありがとうございます。本日は鈴木会長はじめ委員の皆さま方より活発な議論と貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。事務局といたしましては本日いただいたご意見をしっかり受け止めましてプランに基づく推進の施策をさらに進めてまいりたいと考えております。今後とも委員の皆さまにおかれましてはお力添えをよろしく願いいたします。また、齊藤委員、加藤委員、本日欠席の山下委員におかれましては本日の会議が最後となります。長い間多摩川プラン推進会議にご尽力いただきまして、ありがとうございます。何か一言ありましたら。加藤委員。

**【加藤委員】** 6年ぐらいですかね、皆さん、公募がないから続けて、とかですね、いろいろ裏話としてはありました。本当はやめたくなかったのですが、「やめろ」ということな

ので（笑）。また、いつでも何かあればお声掛けをいただければ、はい。

【鈴木会長】 寂しくなっちゃうんだ。

【加藤委員】 そうですね。ありがとう、そう言っていただけるとありがたいですけれども、先ほども少し触れたとおり、本当に皆さん方は頑張られて、ものすごくこの 6 年一緒にやってきて、「すごいな」と感動しているところです。これからも外から、また別の立場から見ていきたいと思えます。今多摩川推進プラン卒業資料というものを作っていますので、そのうちお届けしたいと思っておりますので、皆さま、今までありがとうございました。（拍手）

【事務局】 齊藤委員、何か一言ありましたら。

【齊藤委員】 ちょうど 2 年で終わりますので、来年は多摩エコの代表になっている松井のほうを出そうと思っています。私は宮前区に住んでいますので、菅生緑地という大きな緑地があるのですが、そこで雑木林の維持管理などで、子どもたちと一緒に汗をかいています。そちらのほうで全力投球していきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。（拍手）

【事務局】 ありがとうございました。それでは次回の川崎市多摩川プラン推進会議につきましては現在のところ 7 月ぐらいを予定しておりますので、時期がまいりましたら事務局よりご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。それでは以上をもちまして、平成 29 年度第 2 回川崎市多摩川プラン推進会議を閉会させていただきます。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

（終了）